

平成29年度 夢風船 事業実績報告書

1 総括

平成29年度は前年度末の利用者19名から7名増の26名でのスタートとなった。利用者増に伴う活動スペースの不足と中心的ニーズの多様化から、1フロア1グループでの活動を2フロア2グループに分割すること、またそれに伴う活動の再編、新規作業及び活動の開拓、人材育成が年度の重点課題であった。グループ再編を行った年度当初は混乱も見られたが、2か月を経過する頃には活動も軌道に乗り始め、グループ分けの効果も現れてきた。また、利用者の増加に対応するための作業や活動の開拓についても順調に行うことが出来た。人材育成については各グループのリーダーの育成と全般的な支援レベルの向上、主体的に考える姿勢を目標に取り組んだ。実践を通じての指導のほか、実地研修や学習会を実施したが、少しずつ効果が出てきている。

また、地域のニーズへの対応として、開設以来定員40名への変更を事業計画としてきたが、26名の受け入れを行った段階で活動スペースと送迎機能が限界点に近いことが明らかになり、事業の安定経営の規模を現在の定員20名として定員増の計画を変更せざるを得なくなった。10月に1名の利用者受け入れを行い、利用者は年度末で27名となっている。定員超過による給付費減算にならないためには、受け入れはあと2名までとなるが、特別支援学校在校生からの進路希望や地域の緊急的なニーズを考えると、新たな事業所の開設などの対応が必要と考える。

一方で、年度後半利用者の病気や体調悪化により、利用率の低下がみられ、介護給付費収入の大幅な減少が生じた。この状態が継続すると収支バランスが保てなくなるため、安定経営の 위해서는利用者の増加が必要となっている。施設機能の適正規模と定員超過減算、更に利用率低下による収入減への対策のバランスを計りながら、利用者の適正人数を設定する必要がある。

2 事業概要

- 1) 事業所名 : 夢風船
- 2) 事業種別 : 生活介護
- 3) 所在地 : 東京都小平市小川町2-1931-1
- 4) 経営主体 : 社会福祉法人未来
- 5) 定員 : 20名
- 6) 現員 : 27名 (平成30年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 : 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 : 平成26年11月1日
- 9) 職員 (平成30年3月31日現在)
 - 管理者 1名
 - サービス管理責任者 1名 (管理者兼務: 常勤換算1.0)
 - 生活支援員 13名 (常勤換算12.8)
 - 看護師 1名 (常勤換算1.0)
 - 准看護師 1名 (常勤換算1.0)
 - 嘱託医 1名

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援。
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。

3) 安心と希望の持てる生活。

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 利用者への相談支援
- 6) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業
 - ① 資源回収作業
 - ② 弁当箱配達回収作業
 - ③ マンション清掃受託作業
 - ④ シュレッダー作業
 - ⑤ PC入力作業
 - ⑥ その他受注作業
- 2) 生活支援事業
 - ① 入浴（毎日）
 - ② 運動プログラム（水泳・ウォーキング）
 - ③ バイタルチェック（朝・入浴前）
 - ④ 余暇支援事業
- 3) 行事等

4月	新社会人を祝う会
5月	運動会
6月	食事会
7月	ボウリング大会
8月	川遊び
9月	江戸東京たてもの園見学
10月	ドライブ
11月	旅行（栃木県）
12月	忘年会
1月	新年会・成人式
2月	防災訓練
3月	お祭り

6 日 課

開所・送迎	8：30～9：30
バイタルチェック	9：00～9：30
朝礼	9：30～9：40
出席確認・連絡事項・活動の確認	
活動	9：40～12：00
作業（資源回収作業／弁当箱配達回収作業／清掃作業／PC作業、室内軽作業）	

運動プログラム・・・水泳、ウォーキング	
入浴	
昼食・休憩	12:00～13:00
昼礼	13:00～13:05
連絡事項・活動の確認	
活動	13:05～15:50
作業（資源回収作業／弁当箱回収作業／清掃作業／PC作業、室内軽作業）	
運動プログラム・・・水泳、ウォーキング	
入浴	
終礼	15:50～16:00
送迎・清掃	16:00～17:10
職員打ち合わせ	17:10～17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

7 重点課題・目標

1) 活動プログラム及びグループの再編成

利用者一人ひとりの支援ニーズを整理し、個別のニーズに沿った支援を行えるよう活動を以下の2つのグループに編成する。

- ・入浴、食事、排泄等の基本的日常生活動作の保障における身体介護及び医療的ケアを重要な支援に位置づけながら、本人が意欲的に社会参加活動を行えるよう支援するグループ。
- ・基本的な日常生活動作の支援を保障したうえ、自発的行動やコミュニケーションに対する支援を重要な活動するグループ。

【成果と課題】

平成29年度当初は利用者が26名となり、開設以来の計画であった活動グループの分割を行う規模に達した。これ迄1階フロアで一体的に活動を行っていたが、利用者の中心的なニーズや状況に沿って1階、2階の2グループに分けての活動に変更した。主に身体機能に関わる支援が必要な方や、自発的行動への支援が必要な方を1階とし、主にコミュニケーションや多動性への支援が必要な方を2階とした。

これにより、事業所の雰囲気や職員の支援態勢、活動の流れも大幅に変わり、年度当初は利用者、職員ともに混乱が見られたが、徐々に新しい活動に慣れてきて2か月が経過する頃には、グループ分けによる効果も見え始めた。効果は大きく整理すると以下の3点になる。一点目は個々のニーズに沿った活動が行いやすくなったことである。身体機能の状況やコミュニケーション力のレベルに応じた機能分化を行ったことで、グループ全体での動きが行いやすくなりよりニーズに沿った活動が行えるようになった。2点目は少人数の利用者を少人数の職員が担当することで、一人ひとりの利用者の状況が把握しやすくなり、対応が丁寧に行えるということであった。支援計画に沿った活動の提供やその評価を継続して行いやすい環境となり、記録の精度にも向上が見られた。3点目は職員の育成に対する効果である。2グループに分割することで、一人ひとりの職員の主体的な動きがより重要となり、主体性の意識の向上が見られた。

一方このような効果が見られた反面、課題もいくつか明らかになってきた。グループ分けは各利用者の中心的ニーズに沿って行ったものであり、多様な利用者ニーズはグループ分けで明確に整理できるものではない。同じニーズが2グループに分散した場合、職員配置や活動メニューの都合で両方がニーズに対応できないことが起きることもあった。また、活動内容によっては支援体制のアンバランスが生じ、一方のグループで支援体制が不足する中、一方で余剰が

生じるという事態もあった。更にグループ分けによる担当制は職員が担当グループ以外の利用者の状況把握が困難になり、重層的な支援の低下につながるという可能性もあった。

グループ分けの効果を活かしつつ、その弱点をカバーする方法はグループ間の密な情報共有が決め手となる。日々の活動内容、利用者の状況、支援体制をミーティングで共有し、臨機応変に相互交流を図ることや、月一回のグループ合同行事では、担当グループ以外の利用者も多く接することでその課題に対応してきた。

2) 利用者の活動内容、作業内容の充実

利用者の多様なニーズに応えるため、既存の活動の充実に加え、新規の活動や作業の開発、開拓を行う。

【成果と課題】

新規利用者の活動希望を聴取し、PC作業の充実やプール実施回数を増やすなど新規利用者の希望に沿った活動を新たに実施した。また、音楽の講師を招き音楽活動の充実を図るなど活動プログラムの多様化に取り組んだほか、利用者個々のニーズに対応した個別活動についてもグループ分けの効果もあり充実化が図られた。

作業については、新規資源回収先の開拓や弁当箱の配達、回収作業を増やすことで、利用者増員分の作業を確保することができ、月額工賃も概ね28年度の水準を維持できた。

3) 職員のスキルアップ

利用者一人ひとりの支援充実及び事業充実のため特に以下の点を重点目標とする。

- ・事業経営に関する事項の学習。・・・中核職員

【成果と課題】

対象職員1名に対して社会福祉の基礎構造改革、総合支援法などについて学習会を実施したほか、他法人の事業所での実地研修に取り組み、幅広い取組や地域ネットワークについて知る機会を設けた。また、施設長会議における議題と決定事項を都度伝達し、経営に関する事項を業務の中で伝えていくことで、知識の習得とスキルの向上が図られた。30年度主任として現場統括を行うスキルの習得が行えた。

- ・本人や家族からの相談支援の能力の向上。・・・現場中核職員

【成果と課題】

対象職員に対して社会福祉の基礎構造改革、総合支援法、成年後見制度などについて学習会を実施したほか、担当グループの利用者家族との連絡調整を行う場面を増やし、相談支援に必要な関係性の構築を図った。家族との関係構築は概ね進み、現場中核職員の事業所内における課題の整理と解決方法の提案、実施という点で向上が見られた。生活全般にわたる事項については、スキル習得の機会提供も含めてまだ不十分といえる。

- ・直接支援能力の向上（安全確保及び危機管理、活動参加の支援、コミュニケーション等）
・・・全職員

【成果と課題】

日々の業務中に起きた事象等をミーティングで共有し、支援方法について意見交換を行うほか、実践の中で相互に意見を出し合える関係作りに取り組んだ。全般的には支援方法等について活発な意見交換が行われ、支援能力の向上が計られた。また、5名の職員が法人内の他の事業所で、1名が他法人の事業所で実地研修を行なったことにより、支援方法の幅を広げることに取り組み、効果が見られている。一方28年度の課題であった職員間のレベルの差については実践の中で、職員間で意見を出し合うことにより標準化は少しずつ進んでいるもの、まだ課題は多い。役割の明確化や業務範囲の調整等で対応

を行った。

8 その他の成果と課題

1) 地域の他の日中活動系事業所と連携を図り、療養介護施設入居者1名の日中活動充実のため、活動の場を提供した。11月以降月1回、体験実習として受け入れ、作業やその他の活動へ参加できるよう支援を行った。他の2事業所も各々月1回受け入れを行うことで、当該入居者に対して月3度の外出の機会を設けることができた。

2) 利用者の活動保障において、送迎は重要な役割を果たしていると共に、業務に占める時間的また人力的な割合も年々大きくなっている。利用者の活動時間確保と職員態勢の充実のためには、送迎業務を効率化させること必要な状況となってきた。また、車いす利用者の人数に対してリフト車両の余剰がなく、故障や車検等の際、送迎に支障がきたす事態も想定される状況であった。

29年度はまず、送迎業務の安定化のために以下の取り組みを行った。

・法人内の他の事業所と協力し、何らかの理由で送迎車両が確保できない場合のために、送迎ルートが同じ利用者の送迎代行を相互に実施し、お互いのバックアップ体制を作った。

3) 毎日のミーティングで利用者の状況や支援計画の実施状況について丁寧に情報共有を行ったことで、グループの枠を超えて全職員が利用者の状況を知ることができ、支援方針の統一が図られたほか、可能性の伸長や課題への対策についても組織的に取り組むことができた。中には試行的な取り組みが効果を生むこともあり、チーム支援のメリットを活かすことができた。

4) 家族の病気による入所施設への緊急入所者の日中活動保障のため、10月に1名の利用受入れを行った。

5) 毎朝の体重、体温、血圧、脈拍の測定結果をグラフ化し、全利用者への配布を行った。これまで、測定結果については、希望があった際に数値をお知らせすることはあったが、年間の傾向を含めて、分かりやすくお知らせするのは初めてであった。

9 開所状況

- | | | |
|---------|-------------|-----------------|
| 1) 開所期間 | 自 平成29年4月1日 | 至 平成30年3月31日 |
| 2) 開所日数 | (1) 週開所日数 | 5日間 |
| | (2) 開所時間 | 午前9時～午後4時 |
| | (3) 年間延開所日数 | 243日間(前年度 241日) |
| | (4) 平均活動時間 | 7時間 |

10 利用状況

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1) 利用者延人員 | 5,203人(前年度 3,827人) |
| 2) 1日平均利用人員 | 21.41人(前年度 15.9人) |
| 3) 体験実習者延人員 | 30人(前年度 51人) |
| 4) 1日平均実習人員 | 0.12人(前年度 0.21人) |
| 5) 実習者実人員 | 12人(前年度 17人) |

11 利用者状況(平成30年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	7名
20歳以上30歳未満	7名
30歳以上40歳未満	6名
40歳以上50歳未満	6名
50歳以上60歳未満	1名

2) 障害の状況

愛の手帳1度	1名
愛の手帳2度	19名 (内身障手帳所持 2名)
愛の手帳3度	2名 (内身障手帳所持 2名)
愛の手帳4度	2名 (内身障手帳所持 1名)
身体障害者手帳1級	3名 (内愛の手帳所持 1名)
身体障害者手帳2級	4名 (内愛の手帳所持 3名)
身体障害者手帳5級	1名 (内愛の手帳所持 1名)

障害支援区分

平均障害支援区分 5.2 (前年度 5.2)

3) 通所手段

送迎車利用	26名 (内交通機関併用1名)
交通機関利用	1名 (内送迎者利用併用1名)
家族送迎	1名

4) 居住状況

管内居住 17名 管外居住 10名

5) 性別

男性 20名 女性 6名

1.2 利用者工賃

平均工賃	1人 月額	:	5,116円	日給	:	313円
	(前年度1人 月額	:	3,746円	日給	:	208円)

1.3 余暇支援実習状況

- 1) 参加者 実24名 延べ345名 (前年度実18名 延べ214名)
 2) 延実施回数: 137回 (前年度 113回)

月別実施状況

実施月	実施回数	延参加人数	前年度実績
4月	: 11回	18人	11回 ・ 19人
5月	: 13回	38人	9回 ・ 17人
6月	: 13回	24人	12回 ・ 17人
7月	: 13回	31人	8回 ・ 16人
8月	: 10回	32人	10回 ・ 20人
9月	: 12回	40人	9回 ・ 20人
10月	: 12回	23人	6回 ・ 15人

11月	:	11回	32人	10回	・19人
12月	:	13回	32人	9回	・16人
1月	:	8回	25人	11回	・19人
2月	:	9回	22人	8回	・16人
3月	:	12回	28人	10回	・20人

内容別実施及び参加状況

内容	実施回数	延参加人数	前年度実績	
カラオケ	21回	44人	15回	36人
入浴	25回	75人	12回	26人
散歩	14回	21人	12回	21人
ドライブ	24回	48人	29回	44人
電車	1回	1人	4回	4人
ボーリング	12回	50人	8回	14人
調理	10回	24人	10回	16人
外食	3回	4人	6回	6人
ゲームセンター	1回	2人	1回	1人
散髪	7回	24人	5回	15人
スイカ割り	1回	8人	1回	5人
プール	16回	30人	7回	14人
喫茶店			2回	7人
ぶどう狩り	1回	1人	1回	5人
食事会	1回	9人		

1.4 防災

災害時避難訓練を年2回、防災訓練を年1回実施した。